

INDEX

- ① 巻頭言
② 海への里帰り
④ 叙勲ごあいさつ
⑤ ステップアップ研修

- ⑥ 児童施設より
⑫ 高齢者施設より
⑬ 白寿のお祝い
⑮ 法人新人交流会

- ⑯ 新任評議員ごあいさつ
⑰ 役員会報告
⑱ 役員名簿

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257奈良県生駒市元町2-14-8桃李館内 TEL:0743-74-1172/FAX:0743-74-1911

巻頭言

「小さな親切作文コンクール」

理事長 辻村 泰範

電車に乗って立っていると、「どうぞ」と言っ
て席を譲られることが多くなった。初めて席を譲られ
たのは、京都で貴船に向かう電車内だった。家族と
ハイキングに向かう出で立ちで軽快な服装で意気揚々
と乗り込んだつもりであったが、若い女性に声をか
けられ戸惑ってしまった。結局座らせてもらったの
だが、随分年寄りに見えていたのね、と家族にから
かわれた。10年以上前の話である。

小さな親切と言えば、真っ先に車内で席をゆずる
行為が頭に浮かぶようである。毎年、生駒市内の小
中、高の生徒と一般の人々を対象に「小さな親切作
文コンクール」が実施されている。

小さな親切を行ったり、見たり聞いたりしたこと
を作文にするのだが、老人や妊婦などに席を譲った
テーマが圧倒的に多い。実際、小中学生はこうした
場面ではとても親切だ。学校の先生方の指導が大き
く影響しているに違いない。インバウンドで奈良を
訪れる外国からの観光客が増え、公共マナーの悪さ
なども問題になってはいるが、韓国や中国の若者か
ら席を譲られたことが何度かある。こうした場面に
遭遇すると、たまたま彼が親切であったというより
も、お国の文化にまで想いがいつてしまう。流石に
礼を重んじる国の育ちなのだな、と。だから、逆も
またありなのだ。

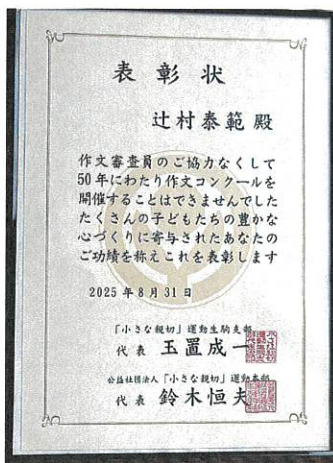
「小さな親切」運動は、昭和38年（1963）

東京大学の卒業式での当時の茅誠司総長の告辞が
きっかけとなって始まったとされている。最高学府
を卒業しようとする学生に向かって、学んだ知識や
教養を百科事典のように頭の中に蓄積させておくだけ

では立派な社会人にはなれないと。やろうと思えば
誰でもできる小さな親切を常に実行することが大切
だというのが、その後「小さな親切運動」は全国に
広がってゆくのだが、生駒市の小さな親切は全国の
中でも早い時期に設立された支部で、当時のいこま
保育園故中山文夫園長や愛護会の宮本しげ子さんたち
が中心になってこの運動を市内に呼びかけたのだった
特に、作文コンクールは東京本部が始めるより早く
昭和44年から始めて今に至っている。集まった作文
は、全て宝山寺に収められていると聞く。

元校長や教育委員の方々などが審査員を務め、優秀
作品は市支部で表彰されることはもちろん全国本部に
も進達される。

全国の作文コンクールが50周年を迎えた記念に、
作文審査を永く続けてきた審査員に感謝状が送られ
ることになったそう、審査員の端くれで作文の一
部を読ませていただいていた私までその栄を賜った
ありがたいことだ。小さな親切が大きな社会運動と
なっていることを嬉しく思うと同時に、もっとも
隅々にまで広がってゆくことを念じたい。



海への里帰り・2025 in 城崎

愛染 寮 主任児童指導員 菅尾 明史

今年も子ども達が楽しみに待っている、海への里帰りがやってきました。今回は兵庫県城崎方面へ行きました。あすなろ会からは、若き智昭会長とミスター海里の住山副会長のお二人が参加してくださいました。私自身、海への里帰りで城崎を訪れるのは20年ぶり、

で2回目になります。

キャラバンとハイエースの2台に乗り込み、8月4日初日を好天候の中迎えました。城崎へ向かう途中出石町の城山ガーテンという所で、みんなでそば打ち体験をしました。そば粉の生地を棒で伸ばした後は、いよいよ専用の包丁で切っていくきます。大人も子どもも珍しく？真剣な表情です。麺は細い太い長い短いなどさまざまなものが出来ました。皆が作ったそばをゆでて、小皿で提供してくれていよいよ食事です。そばの名産地なことに加え、自分たちが作ったものを食べるということも相まって、美味しくみんな大満足でした。

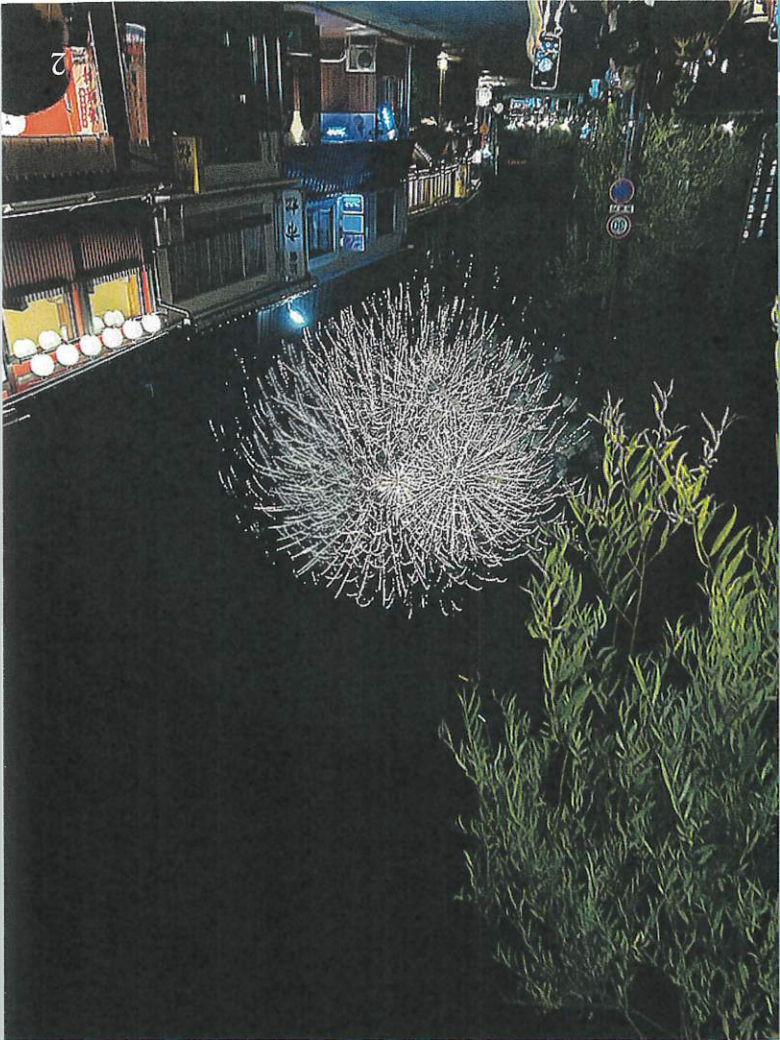
全集中、そば斬りの権え!!



屋食後は一路宿を目指します。こちらは、中間の施設であるいかるが園さんから紹介して頂いたこころの宿 三國屋さんで、宿泊することになりました。とても雰囲気のあるきれいな旅館で、落ち着いた快適に過ごすことが出来ました。旅館到着後は、グループに分かれて城崎温泉の外湯めぐりをして汗を流しました。いろいろなタイプの温泉があり、多くの観光客も訪れていました。さっぱりと汗を流した後は、夕食を美味しく頂きました。

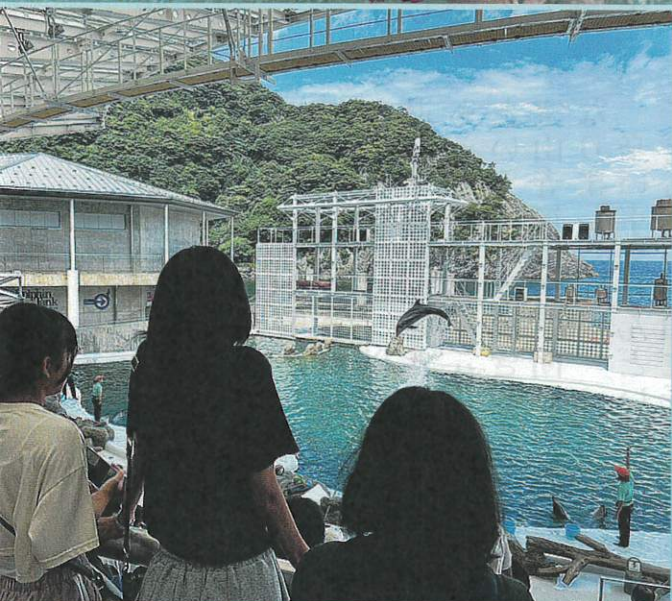
この日は地元のお祭りが開催されており、みんなに参加しました。最後には大きな花火が近くで上がり迫力満点、大満足な初日となりました。

城崎の夜空に咲いた大輪の華!





竹の浜海岸を満喫!



マリワールドへやっぱイルカショーでしょ!

2日目は三國屋さんから車で30分ほどのところにある、竹野浜海水浴場でお待ちかねの海水浴です。前日の天気予報では雨模様で、早々に引き上げることも覚悟していました。しかし、寮長の?みんなの?日ごろの行いが良いのか、晴れ過ぎず曇りすぎずといった感じで、日本海のきれいな海で夕方まで楽しむことが出来ました。小学生低学年の児童も、大人と一緒に浮き輪を使いながらも、境界線ブイのところまで泳ぐことが出来ました。その一方で、泳ぎが得意な寮長から泳ぎが苦手な指導員への愛ある特別水泳教室が開かれ、猛特訓が行われていました。

最終日は城崎マリワールドです。館内ではグループに分かれて行動、まずはどの班もアジ釣り体験にチャレンジ、暑い中での釣りでしたが楽しいのか休憩もせず長い時間、楽しんでいました。最後は釣ったアジを天ぷらにしてもらい、最高の美味しさでした。お土産を買って後は帰るだけです。キャラバンのエアコンが効かないというトラブルにも見舞われましたが、交通渋滞もかいくぐり、何とか生駒に戻ってきました。夕食を生駒市内のワンカルビでお肉を食べ放題、全日程終了となりました。

3日間、天候にも恵まれ、体調を崩す子もなく楽しく過ごすことができ、帰寮してから子ども達は、「海が楽しかった」「蕎麦作ったな」など楽しく話しています。

最後になりましたが、海への里帰り実施に際してたくさんの方のご支援ご協力頂き感謝申し上げます。来年は創立80周年記念海への里帰りとなります。子どもたちの思い出に残る楽しい海里となるように、今から企画を考えていきたいと思います。

●2025年度 海への里帰り報告

◎収支報告 (令和7年4月1日～8月31日)

■里帰り支出報告 (令和7年4月1日～8月31日)

(円)

収 入	ひめゆり基金からの助成金	1,000,000		
	愛染寮自己負担分	129,499		
	収入計	1,129,499		
支 出	海への里帰り (愛染寮)	(学童)	(幼児)	小計
	宿泊費	565,540	133,900	699,440
	燃料代、駐車場代	23,391	14,880	38,271
	その他飲食代	238,737	31,137	269,874
	その他 (入場料金、損害保険等)	101,236	20,678	121,914
	支出計	928,904	200,595	1,129,499

◎学童の部

日程	8月4日(月)～6日(水)
場所	兵庫県城崎方面
参加	児童16名、職員5名、ボランティア2名

◎幼児の部

日程	8月4日(月)～5日(火)
場所	兵庫県須磨方面
参加	幼児6名、職員3名

*今回ひめゆり基金に2,530,300円の温かいご支援を賜りました。心から、お礼申し上げます。

瑞宝車光章 叙勳祝賀会



「いぬの謝意」

[illegible]

極楽坊あすかごども園
リリーダー保育教育諭
林祥子

有難うございました。

たいと思います。



ながら、一日一日を大切に過していきいて添いきい

なこなく、子ども達や保護者に寄り添い

です。これこそ感謝の気持ちでいっぱい

を頂けたことに感謝の気持ちでいっぱい

を感じ、そして、宝山寺福祉事業団に縁を

をい歌うことが、保育ができて、喜びを

を子ども達に笑顔で囲まれて、大好きな

これ、現在までの間で、かきまじりました。

方々、職員の方々の温かい言葉に、保護者

の子ども達、笑顔に、元気が、あります、

辛い事、多い時もありました、

なりました。

宝山寺福祉事業団にお世話になることに

しようと思ひ、保育の仕事が、いたまた

もう一度、専業主婦に前めいた、稚園婚の

退子、専業主婦に前めいた、稚園婚の

と先、生、な、頃、か、保育、稚園、生

憧れ、自分の世話になった、稚園、生



瑞宝単光亭受章祝賀会の様子

極楽坊あすかこども園 園長 辻村 泰聡

林リーダー保育教諭の叙勲祝賀会を、7月27日に奈良ロイヤルホテルで開催しました。法人役員や施設長、園の愛護会役員など、40名の方々が祝いに集まってくださいました。林保育教諭は温かな色合いの着物に身を包み、日常の園の姿とはまた違った佇まいで登場されました。「壇上ではまるで別世界のようでとても緊張した」とのことでしたが、理事長や松村善子前園長からの祝辞、その他にも多くの方々から温かいスピーチをいただき、叙勲の喜びと重みを感じられたことと思います。ご参加の皆さまも、祝宴を通して林先生のこれまでの歩みを垣間見ながら、和やかなひとときを過ごされたことと思います。



ステップアップ研修



デイセンター寿楽

センター長 井上 貴至

令和7年7月15日、法人研修委員会監修による「ステップアップ研修」を開催いたしました。当法人では、職務階級に応じて体系的に研修を企画・実施しており、職員一人ひとりの成長を支援しています。本研修は、職務階級2等級から3等級の職員および、リーダー以上でこれまでアセスメントについて学んだことがない職員を対象として実施しています。今年度のステップアップ研修には、高齢・児童・障害の各部門から12名が参加し、部門の垣根を越えて互いに学びを深める機会となりました。

福祉サービスの現場において、ご利用者一人ひとりの生活状況や心身の状態を的確に把握し、最適な支援へとつなげるためにはアセスメントの力が欠かせません。アセスメントとは単なる情報収集ではなく、得られた情報を整理・分析し、ご利用者の真のニーズを明確にする重要なプロセスです。適切なアセスメントを行うことで、実効性のある支援計画を立案でき、結果として質の高い福祉サービスの提供へとつながります。

研修当日は、午前・午後の二部構成で研修を進めました。午前は「アセスメントについて学ぼう」をテーマに基礎理解を深める講義を行いました。情報収集の方法や課題分析の手順、観察や会話の中から必要な情報をどのように捉えるかと

いった視点を整理し、現場ですぐに活かせる知識を得られる内容としました。午後は「利用者理解を深め、ご本人が望む暮らしを知る」をテーマに、高齢者施設の入居者の方にインタビューをした実際の映像を用いて、グループごとに実践的な演習を行いました。ケース記録など帳票上の限られた情報に依存せず、表情やしぐさ、声の調子といった映像に映る非言語的な要素に注目し、五感を活用してご利用者を多角的に理解することを意識づけました。グループワークでは、支援者自身の先入観やこうあるべきという思い込みを一度脇に置き、ご利用者の姿を新たな視点で捉え直すことの大切さを再確認していただきました。

演習テーマでもありますが、援助者が考える望ましい暮らしとご利用者が本当に望む暮らしとの間にはしばしば差があることに気づかされます。この気づきは、ご利用者主体の支援を実現する上で極めて重要な学びとなります。参加した職員からは「普段の業務では見落としがちな視点に気づけた」「利用者理解を深めるために五感を意識することの大切さを実感した」など、前向きな感想が多く寄せられました。

今回の研修で得られた学びを各事業所でそれぞれ活かし、活躍されることを期待しています。



事務所が新しくなりました 奈良県発達障害者支援センターでいあー

副センター長 大西 和幸

でいあーの事務所は、奈良県障害者総合支援センターの中にありますが、9月に移転しました。といっても同じ建物内の移動です。9月中旬より移転作業が始まり、なんとか無事に引っ越すことができました。もともとは、建物の奥のエリア



事務所内

に事務所がありましたが、現在の場所は、建物の玄関入ってすぐの場所になりました。以前と比べると、事務所が少し広くなり面談室も近く、大変便利になりました。人の出入りも多い場所なので、情報発信の場になっていければと思います。



事務所入り口

とても暑かった夏

「せんせい、あつい。」ハイ、私も暑いです。朝一番から暑く、夕方まで涼しくならず、暑すぎて戸外での活動は制限され、プール遊びまで中止になる日もありました。そんなある日、ままごと遊びが大好きな女の子が「お風呂もってきていい？」と聞きました。よくわからなかったのですが、OKを出すと、次の日、小さめの段ボール箱を持って来て、人形のお風呂を作りました。周りの子どもたちも喜んで手伝っていたのに気を良くしたのか、次は大きめの段ボールを持って来て、自分たちが入れるお風呂を作りました。みんなが嬉しそうだったので、園で段ボール遊びをしようと思い、大小いくつか用意しました。

「段ボール、たくさんあるので遊びたいかな？何か作りたい？どうする？」とすべて子ども任せで



極楽坊あすかこども園

副主幹保育教諭 奥田 香織

段ボール遊びが始まりました。目がキラッと輝いた女の子、友だちを誘って一緒に作りたい男の子、反応は様々でしたが、映画館、祭りのあてもの屋、お店、等々できあがり、「続きはまた明日！」と楽しそうでした。作っている過程では、糊やセロテープではなかなかくっつかなかったり、材料の取り合いになったり様々な問題にもぶつかりました。その都度一生懸命考える姿は、大人顔負けです。友だちとの関わりも深まり、子どもたちの素敵な発想で充実した日を過ごすことが出来ました。

暑い暑い夏で大変大変でしたが、次から次へと課題が出てきて、私たちも止まってられません。日々一生懸命、小さな事でも努力し、色々なことに感謝して工夫して過ごしたいと思います。



奈良県には赤膚焼き、奈良一刀彫、奈良筆などの様々な伝統工芸品があります。

センターではこのような工芸品や伝統芸術・技法を子どもたちが道具や材料に直接触れるとともに自らのオリジナル作品を作ること、郷土の魅力を再発見することを目的として毎年実施しています。今年度は子どもゆめ基金の助成を受け、一般公募で実施し対象を中学生・保護者を含めて行い29人の参加がありました。

講師から赤膚焼きの歴史、特徴及び工程について説明を受けた後に直接材料に手を触れろくろを回して思い思いの作品作りを行いました。手作りの過程で講師に対して多くの質問や助言を求めるなど熱心に取組み自分だけのオリジナル作品を作り上げていました。

子どもたちの発想はすばらしく、植輪、器をはじめ現在開催されている万国博覧会のキャラクター

センター長 徂徠 おさむ

のみやくみやくなどいろいろなものができました。秋の焼き上がりを楽しみます。夏休みの自由研究にしよという子もいるなどこれを機会に赤膚焼きをはじめ様々な奈良の伝統工芸に興味を持ち、体験してくれることを期待しています。

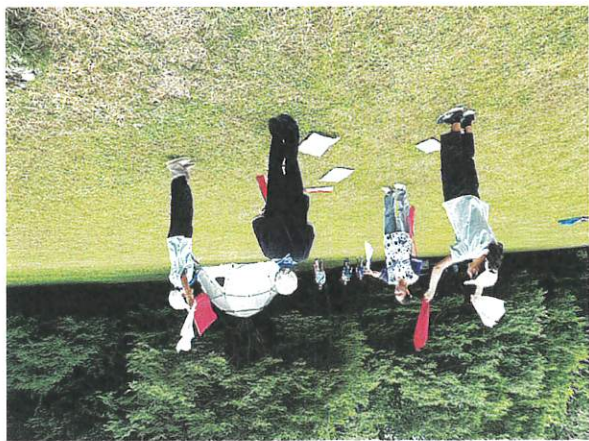


第20回 ボーイスカウト奈良県キャンポリーに参加して 愛染寮

児童指導員 丹下 隼斗

設営をします。12日から本格的にプログラムの開始です。自分達で選んだ楽しそうなプログラムやボーイスカウトの競技で奈良県1位を決める日本一プログラム。スカウト達は、どれも楽しそうに参加していたことが印象に残っています。

私自身、嬉しかったことがあります。それは生駒1団のスカウト達の成長です。始めは迷惑ばかりかかていましたが、時間通りに活動を間に合わせ、どの班よりも綺麗にサイトを保つことができ、合同隊の中で最優秀班に選ばれたことです。今回の県キャンを乗り越えたことでスカウト達は、自分たちで乗り越える力が身に付いたと思います。そんな成長を間近で見れて良かったです。



手旗信号、マスタースタッフ

6月の訓練キャンは、大雨の中黒髪山キャンポリーで行いました。慣れない大雨の中でのサイト設営、ご飯作りで、周りのスカウトを待たせる、時間通りに活動ができない...わが1回は迷惑ばかりかかていました。7月の訓練キャンでは、天気は快晴。暑すぎる中、山村野営場で行いました。ありえないほどの猛暑の中、体調不良者も数名出るほどでした。そんな過酷な訓練キャンを乗り越えての本番当日です。

4泊5日という長い日程でありましたが、心配された大雨が降ることなく、山奥はむしろ涼しく過ごしやすい環境ではありました。11日はサイト設営。自分達が生活しやすいように工夫して、

子どもたちと共に育ちあう日々

あすかの保育園

保育士 吉田 綾乃

今年は0歳児クラスの担任になりました。久しぶりの0歳児で、前回担任した子どもたちよりも月齢の低い子もいて不安もありましたが、子どもたち一人ひとりの姿に寄り添いながら過ごす中で少しずつ経験を積み重ねています。毎日が新しい学びであり、子どもたちと共に育ち合っていることを実感しています。

これまで5年間、幼児クラスを担当してきた経験は大きな財産です。5歳児までの見通しを持てることで、今の子どもたちのありのままの姿を受け止められるようになったと感じています。幼児クラスで大切にしてきた思いを胸に、今は一人ひとりの小さな成長を共に喜び合えることに幸せを感じています。

今年は特に、ふれあい遊びを意識して取り組んでいます。触れ合う心地よさを感じてほしい、体に触れることで安心や発達につながってほしい

という思いから、くり返し楽しんできました。くり返し楽しむうちに信頼関係が深まり、子どもたちが「ふれあい遊びして？」と手を広げたり、「もう1回!」と目を見つめて伝えてくれたりする姿に胸が温かくなります。その度に、子どもたちと心が深くつながっているように思い、保育の喜びを強く感じます。もちろん、ふれあい遊びだけではなく、一つひとつの場面で目を合わせてかかわり、遊び、やり取りを重ねることが大切だと改めて感じました。

ふれあい遊びを通して得られた実感を大切に、これからの半年も子どもたちと丁寧に向き合い、小さな成長や笑顔を共に喜び合いながら、安心して過ごせる毎日を積み重ねていきたいと思っています。そして、子どもたちの姿から学ぶことを自分の成長につなげ、共に歩む時間をより豊かにしていけるよう努めていきたいと思っています。

いこま乳児院の一泊旅行

いこま乳児院

保育士 大倉 瑤子

乳児院の床改修工事のため、急遽決まった一泊旅行。

久しぶりの旅行だ!職員みんなで準備を万全にして、いざ出発!

コロナ前にも年長児を連れた旅行はありましたが、総勢大人10名、1歳児を含めたこども9名での旅行は初めてです。職員やこどもにとって、寝食を共にし、長い時間を側で過ごすことは、社会体験が少ない乳児院では貴重な体験です。

この機会をどのように過ごすのか、試行錯誤したのち、こどもたちが思い切り楽しめる体験を企画に取り入れました。

1日目は、三郷町にある奈良おもちゃ美術館。約300種類、5,000点以上の木の玩具で遊べる新設された体験型施設です。「ごっこファームエリア」で収穫したキュウリや人参をキッチンに持っていったおままごとをしているこども、「伝承遊びエリア」でコマやけん玉に何度もチャレンジしているこども、「木の森エリア」で木のボールプールに入って楽しそうに泳いでいるこども、各々が集中しておもいきり遊びました。そんなこどもの姿を見ると、職員も関わり方や環境の整え方等の学びにつながりました。

そして、初めてのホテルでは、「これはなに?」「あれはなに?」と興味津々でした。いつもと違う食事、

いつもと違うお風呂、楽しい時間はあっという間です。

2日目は、平群中央公園に行き、身体をたくさん動かした後、帰り道にスーパーでアイスを買いました。スーパーに行くことも大興奮なこどもたち。色々な経験をし、職員と一緒に過ごす時間も相まって、こどもたちは2日間でたくましくなったように感じました。

最後に、こどもたちは、この旅行で興奮したり、不安になったりと気持ちも上がったり下がったりし、関わり方に工夫が必要でした。当たり前のことなのですが、こどものペースに寄り添う事が中心の2日間を体験し、子育ての大変さや面白さも感じる事ができました。



おもちゃ美術館にて

副主任 貝田 智子

4月4日、令和7年度の仔鹿園がスタートしました。今年度は園児40名でのスタートです。入園式後から始まった園生活は、バス停から1人でバスに乗り込み登園するという、子どもにとっても保護者の方にとっても、不安がたつさん詰まったバス停での別れから始まります。私たち保育者は、この不安な時期を子どもと、また保護者の方とどう過ごすかが最初の大きな課題となります。まずは安心して登園してもらえような関係を作り、環境を整え、不安材料を1つずつ解消していく毎日。毎年ながら、これで良いのか、これがベストな選択なのかと1番頭を悩ます時期ともなっています。

プールの時期が終わり、あれから5カ月、最初のフェーズをなんとか乗り越え、その後も次々と出てくる課題に取り組み、秋を迎えるこの時期。少しずつ子どもたちに変化が出てきます。登園してバスから降りると、1人で靴箱に向かい、靴を

履き替える、挨拶を返す、自分の持ち物を所定の位置に片付ける...各々できる段階は違っても、毎日の積み重ねが、形や行動となって出てきます。「あの春のことを思えば...」と皆で感動し、喜び合うのもこの時期ならではの仔鹿園の光景です。ここにたどり着くまでには、子どもの成長や発達を見極めながら、個々に合った支援を行い、保護者の方と協力しながらの、毎日の積み重ねがあまりました。私たち保育者は忙しい日常の中でも、先より客観的に、時には俯瞰的に物事をとらえ、先を見据え、支援方法を考える心の余裕が不可欠であると考えます。

この余裕をいかに見出すかが、目下の私の課題であり、その為に記録の簡素化や、音楽ツールのデジタル化などを進め、少しでも現場の職員に余裕が生まれ、子どもたちとゆつたり関わる中で、支援を見極める時間ができるよう、これからも尽力したいと思っています。

2歳児のプール遊び～WBGに気を付けながら～

保育教諭 日野 侑紀

本園の2歳児のプール遊びは屋上で行っています。屋上へ向かう階段では幼児クラス近を通るため、お兄ちゃんお姉ちゃん、幼児クラスの職員に会うことも多く、子どもたちは「行ってきます。」「とんどし」に手を振ってプールまでの道のりを楽しんでいます。

さて、年々気温が上昇する中、今年は生駒市の新しい「熱中症予防・対応マニュアル」に沿った活動となりました。常に熱中症指数計を使用し、暑さ指数(WBG)を考慮するとともに、ソーラー活動となります。プール遊びは、長方形のプールに入ります。プールには水が注がれており、水が顔にかかることが苦手な子どもも落ち着いて自分の遊びを楽しむことが出来るように感じます。また、バスケットに入れた水を頭からかぶったり、お友だちと一緒に畑に見立てた場所に行き、



日陰だから暑くないね!

給食室から願いを込めて

当園は0～3歳までの園児を預かっている保育園です。0歳にとってはミルクを心地よい環境で気持ちよく飲むことだけでも立派な食育ですが、当園では保育士が中心となり、園庭で旬の野菜や果物の栽培や収穫体験をしたり、2歳児はクッキングをしたりと様々な食育活動をしています。

近年では食べることに関心がなく、好きなものしか食べない姿が多く見られ、園で食べる給食に少しでも興味を持って、みんなで楽しく食べてほしいと思い、2年前から給食室でも食育活動に取り組んでいます。私たちは日頃、厨房で作業をしていて、作業着姿を見るだけで泣いてしまう子どももいました。初めは保育室での配膳・下膳の手伝いをし、私たちの姿を覚えてもらうところから始めました。その他に2歳児の保育室に調理師と栄養士が翌日の給食で使用する食材を一つ持ち込み、食材の名前と献立のどこに入っているのかを伝えています。当日には保育士に昨日見た食材の話をしてもらうと、食材を慎重に探し、見つ

いこま乳児保育園

栄養士 中野 公美子

けると満足気に食べている姿が見られ嬉しく思います。そして、もう一つ嬉しいことは私たちの姿を見ると駆け寄ってきて「給食のせんせい」「おいしかった」「いっぱい食べたよ」と声をかけてくれることです。子ども達の力をもらい、それを励みに安全で美味しい給食作りをこれからも頑張っていきたいと思います。



「この野菜はな～んだ」

笑顔でGO! いっぱいGO! 運動会でGO!

昭和っぽいテーマを掲げ、今年度、初めて利用児とその家族を対象に「家族で楽しめる運動会」を開催しました。子ども44名、大人52名、総勢96名の大人数でした。極楽坊あすかこども園の大きなホールをお借りすることになっていましたが、「この人数で入れる??出来る??」とぎりぎりまで不安で、試行錯誤を繰り返しましたが、当日は無事に納まってくれました。かけっこに親子競技、玉入れ、お菓子取り競争など、「嫌だ～!」と泣く子どももほおらず、園児も兄弟も保護者も楽しんで

児童発達支援 いっぱい

管理者 長野 智子

頂き、楽しい時間を過ごせました。今回は「家族通園」の一環として行いました。一番の目的はお母さんだけでなく、お父さん、おじいちゃんおばあちゃん、兄弟にもいっぱい施設の事を知ってもらう事、理解してもらう事、時には我慢をしている兄弟児にも楽しんでもらう事です。

少しですがその目的も果たせたかな、と感じる時間でした。

後になりましたが、極楽坊あすかこども園にも色々ご協力して頂き、本当に感謝です。



頑張るぞー!宣言!



よーい。どん!!

高齢者施設より

12p ■ はあとぼーと梅寿荘

■ 特別養護老人ホーム梅寿荘

■ タイセツター寿楽

■ 梅寿荘在宅介護支援センター
■ 地域支援室

13p ■ タイセツター憩の家
■ 老人総合福祉施設あくなみ苑

15p ■ 梅寿荘タイセツター
■ 生駒市梅寿荘地域包括支援センター

17p ■ 特別養護老人ホーム延寿

研修の積み重ね

はあとぼーと梅寿荘では、年間計画に基づいて毎月研修を実施しています。年度の前半は職業倫理・接遇・コミュニケーション技術等です。研修では、職員が講師となる場合や、外部の講師を依頼することもあります。またテーマによっては、グループワークをして、ヘルパー同士の意見交換を活発に行っています。その研修の中で、ご利用者にかかわりあるヒントを発見することもあり、今後の訪問時に役立っています。

毎年、同じテーマをしているのですが、1年に一度



の研修を受けると仕事の原点に戻り、「襟を正す」と感想を述べたヘルパーさんがいます。テーマは同じでも、新しい知識も取り入れ、各自の経験値からの話し合いを重ねることで、自身が自分を振り返るきっかけにもなりさらなる質向上につながると考えます。秋には、調理実習を予定しており、今回は嚥下に問題のある方の食事作りをテーマに献立を考え調理の工夫をみんな考えてようと企画しています。今後毎月月の研修を充実させていこうと思います。

主任サード提供責任者 金田 智子
はあとぼーと梅寿荘



2025年夏祭り家族交流会

前年度2月にはお餅つきでの交流会をしました。その時には多くのご家族に参加していただきました。引き続き参加していただけたと考えていましたが、前回ご参加くださったご利用者のほとんどのご利用が中止となり、今回の交流会ではご参加いただけるかどうか心配していましたが、2組のご家族が参加してくださいました。

ご家族が来ていただく意味は事業所にとって大きく、利用時のご様子を見ていただくことはもちろんですが、ご家族自身が抱えていることをご家族同士でお話ししあえることが出来たり、

デイセンター憩の家

主任生活相談員 友國 和之

私たちにとってもご家族が見に来てくださっているというオープンなサービスの提供をスタッフが感じ取れることも目的の一つです。会議のような改まった形になってしまうとご家族も話しにくかったり、行事中心になるとご家族の気持ちに寄り添えないまま会が終わってしまうため話しやすい工夫が必要と思われます。

ご多用にもかかわらず今回ご参加いただき、また機会を設けてほしいと言って下さったことに感謝申し上げます。今後も続けてまいりますのでよろしくお願いいたします。

柔軟な発想で臨機応変に

地球温暖化の影響もあり、日本の夏は暑いのが定番となりつつあります。本県もご多分に漏れずその傾向があります。最高気温が35℃を超える、所謂「猛暑日」の日数も年々増加の一途をたどり、平年は15.6日であるのが、令和4年は16日、5年は28日、6年は47日、7年は51日(9月16日現在)となっています。

あくなみ苑では、利用者の皆さんに季節感を味わっていただくため、春夏秋冬に合わせ様々な行事を行っており、7月下旬には『夏祭り』を行うことが恒例となっていました。しかし、近年の夏の猛暑を考えると、開催時間が夕方であるとはいえ厳しい暑さが残り、参加いただく利用者・ご家族・地域の皆さんや職員にとって熱中症リスクがあるとともに、食事提供による食中毒の危険性が高まる状況にあることは否めないとこです。

そこで職員の皆さんと議論を重ね、室内で行うスイカ割りなど夏の行事が他にもあることから、夏祭りを中止し、暑さも治まった10月に『秋祭り』として衣替えし、今年は10月5日(日)に開催することにしました。これまで営々と続いてきた伝統行事といえども、その時々的情勢を踏まえ、利用者の皆さんのことを第一に考え、柔軟な発想で臨機応変に対応することが必要であると考えます。

老人総合福祉施設あくなみ苑

事務長 中 幸 司

令和8年4月からは老人福祉施設三室園組合から移管を受けて当法人が設置者・運営者になります。組合立の施設としての秋祭りが今回で最後になります。利用者・ご家族の皆さんや地域の方々の記憶に残るような祭りとなるよう、職員一同で精一杯盛り上げていきたいと思っています。



令和6年夏祭りの様子

住み慣れた場所で

住み慣れた場所で自分らしい暮らしを続けていきたい、誰もがそう願っているでしょう。養護老人ホームでは、様々な理由で、ご自宅での生活が困難になってしまった高齢者に対し、自立した生活を送っていただけるよう、支援を続けています。施設では、一人で好きなことができる居室での時間、多人数での食事やレクリエーションの時間、どちらも大切にしたいと考えています。入居されている皆様の趣味は実に様々で、とても楽しそうです。読書・ナゾリ(ナゾバレーリス、数字のパズル)・編み物など、それらを通して脳の活性化や生活の質の向上を目指していただき

特別養護老人ホーム梅寿荘

主任支援員 杉田 和則

たいです。皆様が集うファミールムでは、職員による料理レクがよく行われています。パンやお菓子を目の前で作ることによって、香りや音、家庭的な雰囲気を感じることができたら良いなと思っています。この活動は、ご入居者同士が繋がるコミュニケーションの機会を提供するという役割を担っており、私達が力を入れて取り組んでいるこの一つです。生活環境が変わってしまっても、その人らしさが失われるわけではありません。皆様がどんなことをしたいのか、どんな想いを持っているのか日々の関わりの中で了解し寄り添っていくことができたと思っています。

移転のお知らせ

■開所からの歴史

アイセンタース寿楽は、1999年3月1日、有里町の住宅地で開所し、主に生駒市南エリアを拠点として26年間にわたり運営してまいりました。建物は当時の公民館を改修・増築したもので、開所以来、地域の皆さまとともに歩んでまいりました。地域に根差し、多くの方々に支えられ、愛され続けてきたことに感謝申し上げます。

■営業終了について

建物の老朽化に伴い、現地で運営が困難となり、令和8年3月31日をもちまして現在地での営業を終了することとなりました。長年ご利用いただいた皆さまには、ご迷惑をおかけすることをお詫び申し上げます。

■お詫びと感謝

現在通所されているご利用者の皆さま、ご家族の皆さま、またケアマネジャーの皆さまには、移転に伴いご心配やご不便をおかけしており、申し訳ございません。これまで温かく支えてくださった皆さまには感謝申し上げます。新しい施設でも、安心・安全なサービス提供に向けて準備を進めてまいります。

■進捗状況のご報告

改装工事や移転準備の進捗については、今後随時お知らせしてまいります。皆さまに安心してご利用いただけるよう、丁寧に準備を進めてまいります。

■移転先と準備状況

令和8年4月より、門前町の【特別養護老人ホーム梅寿荘】を一部改修し、新たな施設として移転開所する予定です。移転に向け、設計会社・施工会社等と綿密に協議すると共に、梅寿荘と寿楽の職員が各部署で打ち合わせを行い、改装工事の進め方や施設内の動線、設備配置、利用者の安全対策、日常業務の調整などを確認しています。

生活相談員 上平 昇平

アイセンタース寿楽

創意工夫で笑顔に

「デイセンターで過ごしていただく時間を、より楽しく、より有意義にしたい。」そんな思いから、私たち梅寿荘デイセンターの職員は日々活動に工夫を重ねています。ご利用者の皆さんから「入浴の待ち時間が退屈」「座っているだけだと時間が長く感じる」といったお声をいただくことがあり、私たちはその声を大切に受け止めてきました。

そこで取り入れているのが、職員手作りのオリジナルのゲームです。例えば、数字の書かれたペットボトルキャップをマス目に合わせる「数字合わせ」、紙で作ったリングをストローに通す「輪通し」など、身近な素材を活用したシンプルな内容が中心です。どれも一見すると簡単ですが、実際にやってみると指先の巧緻性や集中力、記憶力が自然と引き出され、楽しみながら脳の活性化につながるよう工夫しました。

梅寿荘デイセンター

生活相談員 中井 耕大

また、国旗や漢字を題材にしたゲームでは、ご利用者の知識や経験が活かされる場面も多く見られます。「これ知ってるよ」と教え合ったり、昔の思い出を語り合ったりと、ご利用者同士の会話が自然に広がり、交流のきっかけとなっています。私たち職員にとって何より嬉しいのは、「あれ持ってきて」「もう1回やるわ」と笑顔で声をかけていただける瞬間です。その言葉は、日々の取り組みの大きな励みとなっています。

全ての時間に満足いただくサービスが提供できていないことや、物品の管理、活動内容や活動種類の見直しなど、まだまだ課題はありますが、これからも、ご利用者の皆さんが「また来たい」と思えるデイセンターを目指し、創意工夫を重ねながら、より良いサービスづくりに努めてまいります。

地域に寄り添う支援を目指して

梅寿荘地域包括支援センターでは、生駒市西旭ヶ丘を拠点に、高齢者の皆様が安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいます。今年度は、特に「つながり」と「見守り」をテーマに活動を進めてきました。猛暑が続いた夏には、熱中症予防の啓発活動として、水分補給やエアコンの適切な使用を呼び掛けるとともに、地域の見守り活動を強化。独居高齢者への声掛けや体調確認を通じて、日々の安全を支えました。生駒市では5月～8月の間に68名が熱中症で救急搬送され、そのうち半数以上が高齢者でした。特に住居内での発症が31名と目立ち、屋内での対策の必要性が浮き彫りとなり、暑さに負けない安心・安全な暮らしを支える取り組みが必要と感じています。また地域住民との交流を深めるためのサロンや介護予防教室も開催し、健康づくりと仲間づくりの場を提供しています。相談支援では、

生駒市梅寿荘地域包括支援センター

主任 坂本 ひとみ

介護や福祉に関する悩みに寄り添い、必要な制度やサービスにつなげる役割を果たしています。今後も、誰もが安心して暮らせる地域を目指し、顔の見える関係づくりと、きめ細やかな支援を続けてまいります。



元町2丁目自治会 健康教室風景

より温かい地域づくりを目指して

梅寿荘在宅介護支援センター地域支援室

支援員 横田 郁子

これらの活動は、地域の方々のご理解と協力のおかげで成り立っており、さらには、法人本部や梅寿荘地域包括支援センターの方々のアドバイスやご支援があって、多くの方に足を運んでいただける取り組みができていくのだと日々痛感しています。

今後も、様々な方との出会いやご縁を大切にしながら、さらに、生駒市の福祉・行政機関等との連携を強化しながら、地域社会の活性化や、より温かい地域づくりを目指して、精進してまいります。と思えます。どうぞよろしくお願いいたします。



詐欺被害防止学習会



何でも健康チェック(体組成・骨密度測定)

私は、昨年度より「憩いの家地域支援室」(以下「地域支援室」)の支援員としてお世話になっております。

現在、地域支援室は、元町二丁目自治会が主催する高齢者サロンの活動の場として活用されており、また、奈良県かるた協会(「奈良かるた会」)さんや月2回、小倉百人一首競技かるたを楽しむ活動の場としてご利用くださっております。

地域支援室での活動は、現在、第4月曜日に「俳句の会」、毎週水曜日に「健康麻雀」、毎週木曜日に「いきいき百歳体操」を実施しており、毎回たくさんの方々に参加していただいております。

また、毎月ではありませんが、第4木曜日の午後には、健康や栄養に関する講座(健康教室)、介護予防教室、詐欺被害防止学習会、軽スポーツ(モルック)、音楽鑑賞会(大正琴)、干支作り等の活動も計画・実施しております。



モルック体験

介護副主任 松村 礼子

延寿と生駒市内にある中学校との縁が始まったのは昨年の9月になります。

同じ頃、施設で使用している既存の椅子カバーが経年劣化でマジックテープがつかず、ご利用者が滑り座りになる危険性があり、どうしていいかと悩んでいたまさにその時、中学校の手芸部より何かお役に立てることはないかと連絡がありました。顧問の先生は元延寿の職員の方で、何か目的をもって手芸部の活動ができればと考えるなかで延寿のことを思い出していただき、それならばと椅子カバーを提案させていただいたのです。

今年の8月には特養で椅子カバーの贈呈式を行い、その後、手芸部の中学生のみなさんとご利用者とお食事や歌・体操のレクリエーション

を一緒に楽しんでいただきました。短い時間ではありましたが施設見学もしていただき、特養のことを知っていただくいい機会にもなりまし
たし、10月には中学校の合唱コンクールがある
とのことで数名ではありますが見に行かせて
いただく予定です。

ひとつの縁から地域への足掛かりとなった今、施設だからと閉鎖的になるのではなく、地域との結びつきがご利用者の生活に彩りを与えてくれると思いますので、こちらからも積極的に地域に出向いたり交流できる場・環境を少しずつ作りだすことでご利用者の生活を支えていくとともに、地域の方々に施設の取り組みを知っていただける機会にもしていけたらと思います。



白寿のお祝い



～辻村峯子愛染寮名誉寮長が「白寿」を迎えて～
小紫雅史生駒市長がお祝いに！

当日やむをえず参加できなかった新人職員の方がおられたのは残念でしたが、無事に交流会を始められました。スクリーンショー班の方が同施設同士の交流だけに限らずいろんな

は何か良いか、前年度の反省も踏まえ、食材のもらえるか、食材班においては食べ物や飲み物、シヨンの内容は何か良いか、景品は何か喜んでえながら準備等に取り組みました。スクリーンそれぞれの班が新人職員の方たちのことを考

さて今年は12名のリクルーターが集まり、食材買い出し班、設置準備班、スクリーンショーの3班に分かれて話し合いを行いました。それぞれが新人職員の方たちのことを考えて話しやすい雰囲気を作るように意識しました。出会ったリクルーターの方たちのように、笑顔

今年度の新人交流会は梅寿荘でバーベキューを開催しました。

あすかの保育園
保育士 溝口 由里菜

“新人交流会に参加して”



法人新人職員
交流会

今回、私自身リクルーターとして交流会に参加して、新人の方が少しでも楽しかったと思ってもらえようように、積極的にコミュニケーションを取りました。この交流会を通して、他施設との交流も深まり、お互いの悩みを語り合ったり、励ましあえたり、仕事への意欲にも繋がるということを感じました。

また、この交流会を通して新人職員だけでなく、リクルーターのみなさん同士の交流の輪も広がりました。研修委員さんをはじめ、お忙しい中動いてくださった皆さまのおかげでこの交流会が開催、そして有意義な時間を過ごすことが出来たので良かったです。スクリーンショーとして参加させていきたいと思います。

施設の人との交流を図るため、席はくじで決めました。乾杯の後、美味しいお肉を食べながらリクルーターから積極的に話しかけることで少し緊張されていた新人職員さんも徐々に話が

わかくさ法律事務所 弁護士

評議員 **中村 航**

この度、宝山寺福祉事業団の評議員を拝命いたしました中村航(わたる)と申します。どうぞ宜しくお願い致します。簡単に自己紹介をさせていただきます。

昭和53年10月2日生(歌手の浜崎あゆみと同じ生年月日です)の47歳です。三人兄弟(いずれも男子)の長男です。

平成9年に東大寺学園高等学校を卒業し、平成14年に早稲田大学法学部を卒業しました。高校と大学時代には、陸上競技部(ちなみに、早稲田大学では「競走部」と言います)に所属しておりました。専門種目はやり投げで、高校時代には全国大会(インターハイや国体)で入賞する等、それなりに頑張っていました。

ここ数年は、マスタース陸上(年齢別の大人の陸上競技大会)に出場し、体力の衰えを痛感しながらも、それも含めて、それなりに楽しんでいます。

大学時代は、法律の勉強はそっこのけで、トレーニングに励んでおりましたので、大学を卒業してから真面目に司法試験の勉強に取り組むようになりました。

平成17年に司法試験に合格し、司法修習を経て、平成19年から弁護士として活動しています。

これまで、弁護士として、高齢者や障がい者を取り巻く様々な問題(成年後見や虐待など)に関わる機会もあり、福祉の専門家とも連携しながら、ご支援やご助力を頂くことも多々ありました。

また、ここ最近では、自分の父親(前任の評議員をさせて頂いておりました中村悟です)も高齢となり、日常生活を一人で全うすることが難しく、福祉の専門家のサポートを受ける立場となっており、一利用者の家族として、これまで以上に、福祉や介護を身近に感じる事が多くなっています。

これから先、より一層の高齢化社会が進むことが予想され、福祉や介護の専門家の皆様のご支援やご助力を頂きながら、私自身も、微力ながら法律家としての知識や経験を活かし、辻村泰範理事長をはじめ、皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思っています。

まだまだ未熟者ではございますが、ご指導ご鞭撻の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

奈良市社会福祉協議会 業務執行理事

評議員 **上田 和利**

この度、宝山寺福祉事業団の評議員に選任されました、奈良市社会福祉協議会業務執行理事の上田和利でございます。評議員という重責を拝命し、身の引き締まる思いでございます。

さて、今日の社会は、人口減少、少子高齢化、単身世帯の増加といった構造的な変化により、地域社会における生活課題は、より複雑で多岐にわたる様相を呈するようになりました。孤立、生活困窮、ひきこもり、ヤングケアラーなど、一つの機関や個人では解決が難しい問題には、従来の枠組みを超え、地域社会全体で課題を共有し解決していく「地域共生社会」の実現が求められているところでございます。一方、本事業団のような社会福祉法人には、地域住民の生活を支える基盤として、また新たな社会課題に応える先駆者としての役割が求められており、その期待は年々大きなものになっていると感じております。

本事業団は、昭和21年の愛染寮開設以来、日本の社会情勢の激動期を乗り越え、常に「いまここで

必要な事業」を創造し続けてこられました。これまでの様々な事業展開は、時代の要請に柔軟に応え、地域福祉の発展に多大な貢献を果たされてきた証でもあり、その根底には、法人創設以来受け継がれてきた「興法利生」の基本理念があると承知しております。この志存興法、念在利生の精神は、単なる事業運営に留まらず、すべての活動を通じて社会に貢献するという、本事業団の揺るぎない使命感の表れであり不確実な社会情勢の中で、この理念を堅持し実践することこそが必要であると強く感じているところでございます。

評議員の拝命に当たり、基本理念である「興法利生」をしっかりと踏まえ、関係者の皆様、そして地域の皆様とともに、本事業団の発展に寄与できるよう、誠心誠意取り組んでまいりますので皆様の温かいご支援ご鞭撻を賜われますよう心よりお願い申し上げます。

【会計監査人報告会並びに法人監事監査】

令和7年5月23日(金) 桃李館研修室
独立監査人 森本隆裕公認会計士、岸田泰治公認会計士から令和6年度の計算関係書類について適正に表示しているものと認めると報告を受けた。続いて、上森健康監事、谷川義明監事に法人の事業報告等の監査を受けた。

【第1回 理事会】

令和7年6月2日(月) 桃李館研修室
令和6年度予算支出超過専決処分を行ったことについて承認を求める件
令和6年度事業報告案及び決算案の承認を求める件
社会福祉充実残額の報告について承認を求める件
定款変更について承認を求める件
経理規定の一部変更について承認を求める件
理事、監事の任期満了に伴う改選について新役員候補者を評議員会に推薦する件
評議員の任期満了に伴う新評議員候補者を評議員選定委員会に推薦する件
評議員選定委員会委員を委嘱する件
理事長並びに業務執行理事の職務執行状況報告の件
第10号議案 定時評議員会を招集する件

【評議員選定等委員会】

令和7年6月10日(火) 桃李館研修室
次期評議員候補者について個々推薦理由等を説明した。
同委員会委員が全員賛成を表明し、次期評議員の選定を終えた。

【定時評議員会】

令和7年6月24日(火) 極楽坊あすかこども園
第1号議案 定款変更承認の件
第2号議案 事業報告並びに決算報告
第3号議案 理事長並びに業務執行理事の職務執行状況報告
第4号議案 理事・監事の任期満了に伴う新役員の選任決議

【第2回 理事会】

令和7年6月24日(火) 極楽坊あすかこども園
第1号議案 理事長を選任する件
第2号議案 業務執行理事(副理事長)を選任する件
第3号議案 臨時評議員会を招集する件

【臨時評議員会】

令和7年6月24日(火) 極楽坊あすかこども園
第1号議案 評議員会議長を選任する件
第2号議案 評議員会議長代務者選任の件

◆編集後記

最近、熊による被害が話題に上かります。ナナ、ミナツナなど、どんなの実も不作で、食べ物を求めて人里に下りてくようです。何と！若草山にも出没了したこと。あをによし自然豊かな春日山原始林やういすの滝をゆくり散策することも、傷い願望になってしまつたのでしょうか。

森本